エンジニアパーク Engineer Ring Park

及川　宏之（おいかわ　ひろゆき）

●建設部門（道路）

勤務先

株式会社ドーコン
交通事業本部　防災保全部

➡次号は、天見正和さん（建設部門）

私は、北海道伊達市出身で有珠山の麓で生まれ育ち、隣町の大学を経て、平成 6 年に現在の会社に入社しました。入社後は、幹線道路の整備計画、都市内渋滞対策、道路事業評価などの道路計画、バスや地下鉄、空港等の交通計画など、道路交通計画分野の業務に従事しました。平成 27 年から平成 28 年の 2 年間は、宮城県仙台市で勤務し、培ってきたスキルを活かしつつ、東日本大震災からの復興に取り組んでいる地域の復興事業に関わることができました。平成 29 年に北海道に戻り、主に道路インフラの維持・改良に関するマネジメントを行っております。

技術士資格を取得したのは、平成 20 年でした。入社以来、技術士資格を有する諸先輩たちの活躍をみて、資格取得の必要性を理解していたつもりでした。しかし、必要性の理解だけで、努力を怠っていたこともあり、資格取得まで多くの年月を費やすことになりました。振り返ってみると、それまで、自分の技術者像を確立していなかったこと、そして技術士という資格を甘くみていたことが原因だったと痛感しております。その甘さが普段の業務の進め方にも表れていたことがあり、先輩から「及川はどんな技術者なのだ、何をしたいのだ」と喝を入れられました。その喝で「気づき」を頂き、また、OJT・OFF-JT で諸先輩から指導を受けたことで、晴れて技術士資格を取得することができました。

これまでの経験に感謝しながら、これからも、人々の移動環境・生活環境を整えるため、豊かな人間環境の創造するため、真のニーズを理解しニーズを実現するための技術者として、また、後輩たちに「気づき」を与えられる先輩として、貢献していきたいと強く思っております。

菊田　　寛（きくた　ひろし）

●建設部門（土質及び基礎）

勤務先

株式会社
コンストラクションサポート

➡次号は、岡田弘道さん（建設部門）

「ありがとう」大切な人に感謝の気持ちを伝えていますか？　ありがとうの反対は「あたりまえ」です。

私の家のトイレに飾ってある標語です。毎日これを見ていると、会社の仲間やこれまでお世話になった方々の顔が浮かんできます。

私が技術士になれたのは、これまでの人生を通じて、おそらく数千人の方から学び、学んだ知識や経験を組上げたからです。不思議なもので、厳しく時に意地悪な方からこそ、多くのことを学び、忘れない記憶や知識として私の礎となっています。当時は「この野郎！」と思ったこともありましたが（笑）、何とか反論したいという反骨精神から仕様書を読み返し、時に自分の未熟さを思い知らされて、少しずつ知識や経験を積み重ねることが出来ました。せっかくのこの機会に、私に関わってくれた多くの方に「ありがとう」と言いたいです。

自分が技術士になり、後輩の指導をすると、つい「あたりまえ」と勘違いして感謝の気持ちを忘れてしまうことがあります。私がお願いしたことを、仕事なんだからやるのはあたりまえ、技術屋なんだから知っていてあたりまえ。社会人なんだから常識があってあたりまえ。しかし、自分の新人の頃を振り返ると、よほど知識もなく、世間知らずだった気がします。後輩の「出来ました」には「ありがとう」ときちんと伝えられる人間でいたいと思います。私は、当初、色々な資格試験に落ちまくっていました。少しずつ自分が教える機会が増え、教えるのも大変だよな～と、資格の講師に感謝の気持ちが持てた時から試験に受かるようになりました。これからも毎日感謝の気持ちを確認していきます。トイレで。